

# 強者の戦略

2019年度 東大地理 第1問〔問題編〕

東大頻出の「自然環境と人間活動の関係」からの出題です。設問Aは見慣れた問題だと思いますが、設問Bのメッシュマップ問題は意外性がありました。さほど難しくはないですが、面食らってやや時間がかかった受験生が多かったんじゃないかと思います。では、今の力でどれだけ太刀打ちできるのか、この1週間で頑張ってみてください。

## 【2019年度 東京大学 文科前期 第1問】

自然環境と人間活動の関係に関する以下の設問A～Bに答えなさい。解答は、解答用紙の(イ)欄を用い、設問・小問ごとに改行し、設問記号・小問番号をつけて記入しなさい。

### 設問A

図1-1は、東アジアから東南アジアにかけての海岸線と主要な河川(a～d)を示している。また図1-2中のP～Rは、図1-1中のア～ウの各地点の月平均降水量の変化を示したものである。これらの図をみて、以下の問いに答えなさい。

- (1) 図1-2中のP～Rに該当する地点の記号(ア～ウ)を、P-Oのように答えなさい。
- (2) 図1-1中の河川cの下流域では、かつて文明が栄えたことが知られている。都市の周辺には、巨大なため池が作られてきた一方で、川沿いの家屋は高床式となっているものが多い。その理由として考えられることを2行以内で述べなさい。
- (3) 図1-1中の河川dの河口付近の海岸域では、ある植生が広がっており、2004年に発生したインド洋津波による内陸への被害の軽減に役立ったと考えられている。他方、この植生は、河川bの河口から河川cの河口にかけての海岸地域を中心に、急速に失われている。この植生の名称と、失われた原因を、あわせて2行以内で述べなさい。

# 強者の戦略

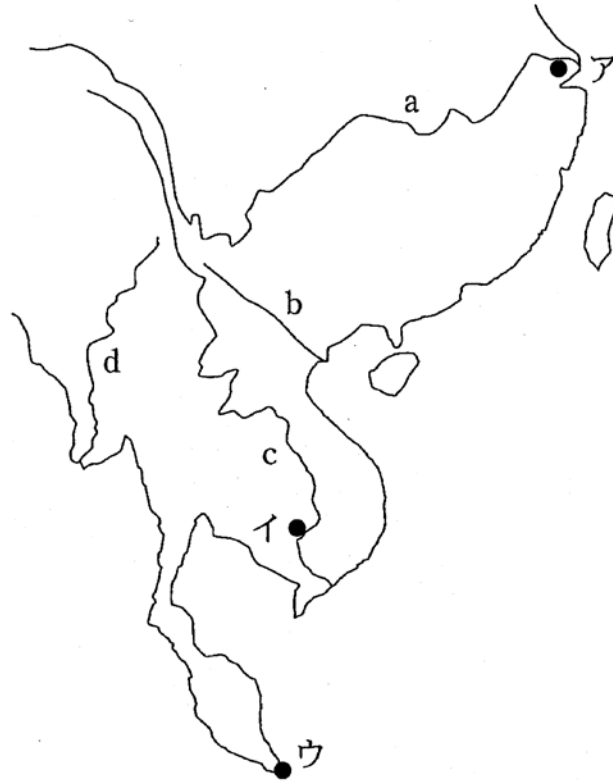


図1-1

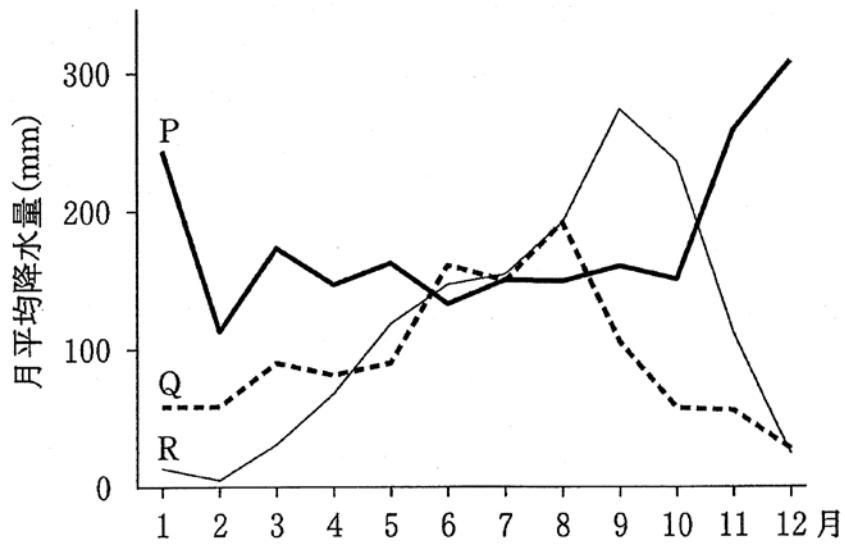


図1-2

# 強者の戦略

## 設問B

メッシュマップは、地表面に一定の間隔の方眼線をかけ、各方眼の区域(メッシュ)ごとに土地の情報を示した地図である。コンピュータで扱いやすいため、地理情報システム(GIS)で使われる地図の代表的な形式の一つになっている。図1-3は、ある地域(地域X)の標高の分布をメッシュマップで示したものである。各メッシュに示された値はメッシュ内の平均標高(単位は m)である。図1-4は地域Xにおける人口の分布のメッシュマップで、各メッシュにおける人口が100人単位で示されている。両図の各メッシュの大きさは縦横ともに500mであり、方位は上が北である。

- (1) 地域Xには、海面、沖積低地、台地、山地、比較的大きな河川がある。これらの要素が地域の中でどこに分布しているかを3行以内で述べなさい。記述の際には他地域に関する次の例を参考にしなさい。「地域の中央に湖があり、北東部には扇状地がある。また、北西部から南西部にかけて深い峡谷があり、その底を河川が南に向かって流れている」。
- (2) 図1-4に示された人口の数値を用いて、地域Xの人口密度を算出し、単位をつけて答えなさい。有効数字は3桁とする。
- (3) 図1-3と図1-4に基づき、地域Xの人口の分布が地形にどのように影響されているかを、2行以内で述べなさい。

319	298	254	233	99	38
247	202	198	153	18	178
98	123	42	13	144	255
28	15	6	18	163	232
5	2	6	32	176	243
0	1	3	29	155	221

標高(m)

図1-3

0	0	0	0	2	1
0	0	1	2	1	2
1	2	3	2	2	0
3	5	2	5	1	0
6	2	10	3	1	0
0	1	4	3	0	0

人口(×100人)

図1-4